



共同通信



2010年5月15日 165(375号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email: koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 齒ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 65 『つながり』

二人の息子たちが、共同幼稚園に入園したのが、8年前と、7年前です。残念ながら上の子だけ、らったさんからのスタートでしたので、彼のぼっぼ時代を本人も私も味わうことができませんでした。まあ、今更後悔してもしょうがないのですが、すぐもったいないことしました。合わせて4年間の幼稚園生活でしたが、私の最後の1年間は周りの仲間のお陰で(笑)特に充実した年になりました。運動会で躍らせて貰ったり、卒園式までに必死に作り上げた紙芝居も楽しい思い出です。子どもたちが、毎日草や木、虫、風、川などとの新しい出会いや、発見をして沢山の笑顔になっている間に、私もいろいろ

なつながりに幸せを感じさせて貰っていました。

そのつながりのお陰で、子どもたちが卒園してからも、また違う形で、幼稚園にお世話になる事になりました。子どもたちは、教会学校、たのしい学習塾。私は、アートガレージ運営委員会、ききるんの会。教会学校では、能勢や沖縄キャンプなどの楽しみも多くありますが、それ以上に、年齢や性別の異なった沢山の友だちやお兄さん、お姉さんたち、また親とは違う大人たちが、本気で、またこだわりなく自然に関われる存在であってくれる事、それが本当に息子たちには心休まるスペースだったようです。(現在進行形ですが...) 小学校では、1

それなりに気を使うところもあるのですが、ここでは違うようです。本当に有難いと思っています。6年生の子が、最近「教会学校は、ええとこやな〜。」と言いました。何で？と尋ねたところ、「普通、あかんって言われる事、何でもさせてくれるもん。」と答えました。何が「あかんって言われる事」なんかな〜。と思ったのですが、「ナイフも使うし、いろんな物作ってくれるし、いろんなとこ連れてってくれるやん。」と。学校では叶わない事をさせてくれる事を楽しいと感じているのかな〜と、思いました。「そりゃ、こんな楽しいとこないわ。」と思いましたが、その反面、学校ってそんなに狭く感じるところなのかと、寂しくも感じました。多くの人数をまとめる学校に限界もあるのですが、五感をもっとのびのびと伸ばして過ごせる場所になって欲しいですね。

その五感を感じる事ができる一つが、ききるんの会です。はじめは、子どもたちが木に触れて遊んで欲しいという思いで入会したのが、5年前です。小黑先生の愛情ある優しい思いの詰まった組み木を、触るとホッとします。デザインはもちろんのこと木の匂いも好きですし、木目も大好きです。最近、メンバーみんなで結構真剣にデザイン出しも頑張っています。そんな事をしていると、また小

そのデザイン出しにも、子どもたちが大活躍します。どれだけシンプルな線で描き切るかを考え、その生き物を表現できるかにかかってくるのですが、これがなかなか…。ラフスケッチを描いていると、横から子どもたちがたまにですが、割と的を得たアドバイスをしてくれます。彼らは横で宿題しながら、私の必死なスケッチにちゃちゃを入れてきます。変な形が、驚に見えてみたり、らっこに見えたり。すごく助かります。兄弟で意見が違い喧嘩にまでなる時もありますが、実は、そんな時間も結構好きなんです。三人で頭を寄せて、一枚の紙にあ〜でもない、こ〜でもない。と、たわいもない時間が楽しかったりします。最後は、飽きられて結局私が一人で奮闘してるという図になりますが。それもききるんの会のお陰ですね。

そのまだまだ拙い技ですが、地域活動にも携わるつながりもできました。今までのイベントで、カスタネットを造った事もありますし、沢山のバッチを造った事もあります。人様にお渡しするものですから、自己満足の世界ではいけません。それはそれは大変ですが、大きな達成感もあります。最近では、阪急西宮北口駅前の工事中の公園のフェンスに装飾のお手伝いもしました。味気のない工事中の場所が、楽しい空間に変身しましたが、一人では絶対に出来ない事ですが、ききるんの会のメンバーが

集まれば、大きな力となりました。駅前
の多くの人の行き交う場所を、見て心
が和み、また活気ある安全な地域に
できればと思います。

そんな強力なききるんの会は、昨
年廃校になった篠山市の後川小学校
に、おおさんしょううおのデザイン
をした組み木を届けることも出来ま
した。後川は、自然豊かなところで
す。川も流れ木々も沢山あります。こ
んな素敵な場所で、私たちは木材の
勉強をしたり、子どもたちの糸のこ
教室なんかができたら、本当に楽し
いと思います。夏の子どもキャンプ
でも連れて行って貰える場所ですが、
また上の子の「教会学校は、ええとこ

やな～。」が聞こえてきそうです。

いろいろなつながりで私や子ども
たちは、ここにいます。これからも、
多くの方々に支えられて幸せな時間
を過ごすことを感謝していきたいと
思います。

(金澤 圭子)

「…私の文学はどちらか一方の谷間で一滴の血も流さずに血の泣き声をあげるホトギスの夜で終わってしまっただろう。純粋と迷走と参与と。教条はそれらすべてを超えて新たな生命力を発揮する文学の進歩的な二つの指標である。」

(「星が飯となる切実さ」高銀)

ローマ人への手紙は「キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び別たれ、召されて使徒となったパウロから」で始まっています(1章1節)。「福音」は、パウロによればユダヤ人をはじめギリシア人にも、すべて信じる者に救いを得させる「神の力」で、それは即ち「神の義」を生きること、そうではない「不義」を生きる人を神は許したりしません。その不義の人たちは、「自らを知者と称しながら、愚かになり、不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せ」「神は、彼らが心の欲情にかられ、自分のからだを互いにはずかしめ」、かつ「神は、彼らに恥ずべき情欲に任せ・・・」、更に「彼らに神を認めることを正しいとしなかったので、神は彼らを正しからぬ思いにわたし、なすべからず事をなすに任せられた・・・」などということになります。そうして「不義をもって真理をはばもうとする人間」、福音を恥じ、神の義をはばむ人たち、即ち「あらゆる不義と悪と貪欲と悪意とに
4 あふれ、ねたみと殺意と争いと詐欺

と悪念とに満ち、また、ざん言する者、そしる者、神を憎む者、不遜な者、高慢な者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者となり・・・」のことが、これでもかという具合に列挙されます(1章29～30節)。自らを「キリスト・イエスの僕、神の福音のために選びわかたれ、召されて使徒となったものとするパウロは、少し福音を語る一方、福音を恥とする人たちを、とことん徹底してえぐってやみません。更に、神の「福音を恥としない」パウロは、言わば神の代弁者になって「あなたは、神のさばきをのがれようと思うのか」「神は、おののちに、そのわざにしたがって報いられる。すなわち、一方では耐え忍んで善を行って、光栄とほまれと朽ちぬものを求める人に、永遠のいのちが与えられ、他方では、党派心をいだき、真理に従わない不義に従う人に、怒りと激しい憤りとが加えられる」と、言わば善と悪に峻別してしまいます(2章7、8節)。

マルコによる福音書は、「神の子イエス・キリストの福音のはじめ」で始

まり、“福音”については、更に「ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、『時は満ちた。神の国は近付いた。悔い改めて福音を信ぜよ』』と、言及しています。というか、言及はその程度で、例えばパウロの福音のように、あれこれくどくど言及されることはありません。福音は“神の子イエス・キリストの福音”と言われるだけで、言葉の解説のようなものはほぼ皆無です。

更に、こうして始まったイエスの働きの中で「それから彼らはカペナウムへ行った。そして、安息日にすぐ、イエスは会堂で教えられた」と言ったりする場合も、その教えの中身のことがあれこれ言及されることはありません。27節には「『・・・けがれた霊に命じられると、彼らは従うのだ。』こうしてイエスのうわさは、たちまちガリラヤの全地方、至る所に広まった。」と書かれています。パウロの場合、明瞭にかつ具体的な善悪にまで言及される、福音の神の力の神の義は、マルコによる福音書では、イエス・キリストの福音の“うわさ”でしか示されません。うわさというものが、根も葉もなかったりすれば、一旦は広まったとしても立ち消えになります。しかし、けがれた霊に人の集まるユダヤ教の会堂で「黙れ、この人から出て行け」と対峙したりのように、根も葉もある出来事で

あってみれば、そのうわさはそんなに簡単に立ち消えにはならないものです。更に、それらのことが、“会堂で教える”という、恐れ多いことをして、更にそれが「権威ある者のように」であったとすれば、そのうわさが更にうわさを呼んでもあり得ることです。

パウロの場合、福音、即ち神の力、即ち神の義が説かれる相手は、「不義をもって真理をはばもうとする人間」「一般」です。これらの言葉を聞く人は、誰であったも逃れられないという意味での一般の人なのです。マルコによる福音書のイエスが福音を“宣べ伝え”る時、その場所がユダヤ教の会堂であったりすれば、そこで権威者として振舞っていた律法学者の存在は完全にかすんでしまいました。という“うわさ”が、たちまちガリラヤの全地方、いたる所に広まる、ということが起こってしまいました。そうして起こっていることが、マルコによる福音書が言いたい“神の子イエス・キリストの福音”なのです。
(菅澤 邦明)

～今月のいのり～

緑の葉っぱが日の光に照らされています。新しい年度が始まってひと月、子どもたちは目の前に広がった新しい世界を自分たちなりに受け入れています。私たちの毎日を守ってくださってありがとうございます。

5月は子どもたちの礼拝にお母さんたちを招いて共に時を過ごすことができました。今、隣りにお母さんがいること、心の中にお母さんがいること、自分がお母さんになること、全て神さまが創られた人という奇跡です。

主イエスが母マリアのもとに幼子として降ったことは、神さまが創られた人と人とのつながりの奇跡です。

讃美歌 510 番が今日も私たちの心に響いています。

どうか、私たちを世に送り出してくれた存在に感謝を忘れることがありませんように。神さまの愛が、その存在を通して私たちにも伝わりますように。

(大平 有紀)

“ みんな大好き、春の訪れ～ ”

たんぼぼ たんぼぼ～ たけのこめだした～ 子ども達と共に楽しんでいる、わらべうた。様々な季節のわらべうたがあり、今は春のわらべうたをいっぱい楽しんでします。散歩先でたんぼぼを見つけ、『たんぼぼたんぼぼ～』と一緒に見て、歌って共有できる時間がとても幸せです。歌でつながっている、そんな気がします。わらべうたは短い、長い、曲やリズムが簡単、難しい、など様々な種類があります。1人で遊んだり、みんなで遊んだり、部屋や園外で～と場所も選びません。そんなわらべうたは子どもたちの生活の中にあり、自然と口ずさむことができる存在なのです。初めて出会う子どもたちも多い、今年度仲間入りした、ぼっぼ組の子どもたち。教師が歌うと口元を見て、分からないなりに一生懸命歌おうとする姿は何とも言えずかわいいです。たった数回歌っただけで、覚えられるわらべうた。知らなかったのに、歌えるようになって嬉しい！それは大人も子どもも同じで嬉しいはずですよ～。私もここ共同に来て、初めて出会ったわらべうた。すらすらと、そして多くのわらべうたを知っている先輩たちのことを羨ましく、そして自分もあんな風にと感じて必死に覚えようと思いました。しかし、ただ覚えるって、やっぱり難しく

て・・・しかし、子ども達と共に生活する中で、気付くと口ずさんでいる自分に出会い、これがぁ～と子どもたちの気持ちというか思いのようなものが分かった気がします。きっと子どもたちも生活の中で様々なことを身に付けていっているんですね。歌を覚える子ども達の記憶力！？はすごいと驚かされることも多々ありました。ただ文字を眺めて必死に覚えようとしなくても、仲間と共に歌い、共有する時間があり、自然と身体に入ってくるんですね。そんな子ども達と過ごす毎日は本当におもしろい！何が起こるか分からない毎日。どれだけ予想していても、えっ！？と、とんでもない言動や行動をする子ども達。だからこそ、おもしろいって思います。そんな考え方もあるんだと、子ども達から教えられることも実に多くあります。子どもの気持ちになって、いつも子どもの気持ちを～そう思っています。決して子どもには戻れません。しかし、少しでも子ども達の気持ちに近付きたい！理解したい！そんな思いが子ども達と共に過ごす毎日の中で生まれ、育ってきたと自分では思っています。いつ見ても初めての気持ちで、そのことを忘れずに、これからも子どもたちとの毎日を過ごし、生活をしていこうと思っています。

園庭の桜の花、咲き始めが早く、散るのも早いのかな～と心配していましたが、子どもたちがやってくる頃にも美しく咲いてくれていて一安心。花が咲いたと思ったら新しい葉、若葉がどんどん出てきていて、その色鮮やかな緑に心が温かくなったり～。桜の木だけではなく幼稚園の園庭にはたくさんの木があり、春の訪れを共に喜び、若葉を出していました。園庭にいるだけで、いっぱい春を感じることができですが、幼稚園の畑でも多くの春を感じることができます。やっぱり春の畑と言えば・・・いちご～ 今年4月に寒い日が続き、赤く色づくのが遅かったものの、5月には赤く色づきたいちごを実らせてくれました。昨年、子ども達の手で植えられた苗。寒い冬を耐え、白い花を咲かせ、緑の実を付け、次第に赤く色づいて子ども達がやってくるのを待っていてくれたんですね～。ぼっぼぐみは年長組、さんぼ・らった組が畑で摘んで、幼稚園に届けてくれたものを味わいました。幼稚園の畑で摘んだいちご。まだ見たことのない幼稚園の畑。きっと色々な思いでいちごを味わったことでしょう。何度食べても畑のいちごは美味しい！自分の手で摘んだいちごを初めて畑で味わった時の感動・・・それはそれは美味しかったことを覚えています。スーパーで味わういちごとは違う、最高のいちごなのです。

4月、雨の日が続き、少々登場が遅れた年長組のこいのぼり。今年も津門川の上をのびのびと泳いでくれました。年長になってすぐの大仕事！が、このこいのぼり。武庫川の河川敷で大きな白い布に描いたこいのぼり。小さくてステキな絵描きさんたちがステキな模様を描き、お家の方がこいのぼりに仕上げてくださいました。手や足、服や靴など、顔にまで絵の具が付いていた子どもたち。でもそれだけ必死になったという証拠ですよ。その年長組のこいのぼりを通りかかった人が眺め、笑顔になっている様子を見ることができた時はとても嬉しかったです。そして、ぼっぼ組

が幼稚園の外へ出るはじめの一步は、そのこいのぼりを見に～なのです。川を覗くと魚がいて上はこいのぼりが泳ぎ、ぽっぽ組の子どもたちを楽しませてくれました。きっと津門川の魚たちも驚いたことでしょう。いや、今年もこの時がやってきたな～とっていたり～。そんなぽっぽ組のはじめの一步は年長組のこいのぼりを見に行くことから始まり、これからの、冒険につながっていくのです。

年長組、さんぽ・らった組、ぽっぽ組、それぞれが春を喜び、楽しみ～そして、共感し、近くにいる大人もそんな子どもたちと過ごせる日々を喜び、

楽しんでいます。これからの日々、子ども、大人も共に喜び、楽しむ時間が豊かなものとなりますように・・・どうか神様、ずっとお守り下さい。

(水田 有希)

すずや便り

こんにちは。「真冬並の寒さです」という天気予報もあった4月でしたが、やっと爽やかな日が続くようになりましたね。5月のテーマは恒例の？バラです。季節モノなのでお付き合いください(笑)。我が家のバラたちは今年も蕾が膨らんできています。年に一度、春にしか咲かない「シャポードナポレオン」の花数が一番気になります。万遍なく日光が当たるようにせっせと鉢の向きを替えて花が咲く日を指折り数えているところです。この、待ち遠しい感じが幸せなんですよ！

ところで、挿し木をしていた枝からどんどん若い葉が出てきました。「1月上旬に剪定した、冬芽がたくさんついている色味のいい枝」を使い古しの土が入っているプランターに挿していたものです。気をつけているところは枝を選ぶ肥料分の少ない土を使う土の表面が乾いたらたっぷり水遣りの3点です。去年は全滅だったのに今年は絶好調！この違いを探るのは来年への宿題ですが、長い課題になりそうです。

「成功率が高いのもいいけど育てきれないな～」と、何本か千葉の実家に 9

移植しようと掘り返してみたところ、なんと、まだ根がでていないではありませんか！枝の周りに白いもこもこしたものがびっしりついているのです。これは???と思い、触ってみると結構硬い。まさに、根っこの親玉といった感じです。慌てて調べてみると白いもこもこは「カルス」という根が出る前の段階なのだそうです。

一般的なバラの挿し木方法として「水に入れてカルスの発現を確認してから土に植える」そうなので、植え替えにはちょうどよかったようです。というか、今頃初めて調べてるって。きっとこの原稿がなければ調べもしなかったのでお勉強になりました。そういえば、アボガドの種も「水に入れて・・・」説が有力でしたが、そのまま空いている鉢の土に押し込んでふと気づけばもう3年目になります。茎の周囲を測ったら6.5センチでした。これを地面に植えたらアボガドの実がなるのだろうか？と考えつつ、見

事な葉っぱの観賞用鉢植えとしてベランダでの存在感は抜群です。

ここまで書いて「みしのたくかにとをたべた王子様」(松岡享子 作：福音館、現在は「みしのたくかにと」こぐま社)を思い出しました。印をつけずにごちゃ混ぜに挿し木をしてしまった私は“いなれしもかろいき、いなれしもかじんれお、み・し・の・た・く・か・に・と”。

(富家 香麻里)

みかん便り

5月になって急に気温が暑くなりました。梅雨頃は湿気でジメジメしそうですね。ゴールデンウィークには久しぶりに京都に帰りました。成人式以来です。今回1番びっくりしたことは、『四条駅』が『祇園四条駅』に

通した頃に一緒に変わってたらしいですね。気づきませんでした(笑)

4月はバイトや他の事忙しい割には特別たいしたこともなく、1ヶ月が過ぎてしまいました。3回生になって、周りは就活の資料を読み始めたり、進路決めに追われたりと、大学生活

の折り返しを過ぎたんだなぁと実感しています。自分自身も、教育実習の受け入れ探しや、介護体験の時期決定、ゼミの資料作成、そしてゼミで9月から行くインドへの事前学習など日々終われている毎日です。暇なことよりは忙しいほうがいいと思いますが、バイトを辞めて家でござろしてみたいと思うのも事実。逃げ癖はつけたらあきませんね！

ゴールデンウィークに京都に帰って、久しぶりに小学校6年生の頃の恩師に会いました。成人式の日都合がつかなかったのも、無事に成人したと報告に行ってきた。20分ぐらいですが、最近の事や進路の事、楽しく喋りました。小学校を卒業して9年ほど経ちますが、「～は最近どうなん？」「～ちゃんと仕事きまったか？」「～はもう悪い事してへんやろなぁ？」など、先生からどんどん同級生の名前が出てきます。自分は中学のクラスメイトでもう覚えやのに(笑)これが教師なんやなぁって感心します。初めて尊敬しましたよ。

昔から先生が言うには、「教師って言うのは、毎年たくさんの人に出会える職業なんやから、その出会いを忘れるのは相手に失礼や。出会った相手に忘れられるのって寂しいやろ？せやし、極力忘れたあかんのやで。」今回も同じような事を言ってきました。

こういう事を何も考えずにその場でサラっと言える大人ってカッコいいですね。去年の6月ごろの夕張遠征の記事に「人との出会いを大切に」って書きました。この事はこの先生に教わったようなもんやったんで、久々に聞けて、なかなか感慨深い気持ちになりました。

ってまぁ、まとまりない記事になりましたが、来月は忙しさに翻弄されんと、しっかり周りを見ながら生活していきたいと思います。

それでわ。

(河村 高志)

大切な贈り物・津門川 9 2

“ みんなの津門川を掃除しよう ”

毎月一度の津門川の川掃除はいつもたくさんの子どもと大人が参加しています。大人は大きな長靴をはいて川に飛び込んで、子どもたちは川の上でゴミを集める作業をそれぞれしてくれています。

津門川はどんなにどんなに掃除しても一か月経ったらゴミだらけになってしまいます。僕はいつも川に入って背泳ぎしながらゴミを取っていますが、そんな汚れた川を、懲りずにゴミの無い綺麗な川に戻すのはとても気持ちがいいです

時には鯉が寄ってきたり、鴨が話しかけてきたり、よく分からないネズミみたいな生き物が泳いでいたり、珍しい綺麗な鳥が頭の上を通り過ぎたりもします。

でも冬の寒い時はひたすら寒いので

少し大変(T_T)しかも凄く汚いゴミが出てくる事も(;)!!

でもそんな大変な川掃除が終わった後には美味しいおにぎりやラーメンが食べれる～ 大人の人にはビールもあるぞ～ そして何よりも終わった後の達成感が最高ばい！！

だから僕は小学生の時からなるべく参加して地域のため社会のため日本のために働いてきました。

日曜日の昼間はみんな遊びたいかもしれないけど、一緒に楽しくみんなの川である津門川を掃除しよう！！

(木田 風薫)

2010年5月 あんなこと こんなこと...

教会学校から

《4月の活動報告》

4月4日(日) イースター礼拝

4月11日(日) 高松公園で大なわ大会

4月18日(日) ペシャワール会企画「アフガンに命の水を」DVD鑑賞会

4月25日(日) 紙飛行機大会

”母の友”で紹介され、淡路島ワークキャンプの時も楽しんだ紙飛行機！今回は教会学校全員で高松公園へでかけ、みんなで紙飛行機大会で盛り上がりました。

《5月の活動予定》

5月2日(日) 幼稚園の畑にでかけよう！

5月9日(日) “母の日”コンサート

第3回にしきたLALALAミュージシャンコンテストグランプリのMUD RECORDSをお呼びしてのミニコンサート、そして最後は“ドンスカパンパンおうえんだん”のダンスを楽しみます。

5月16日(日) 森栗先生に“川”のお話を聞く

5月23日(日) プラトンボを作って遊ぶ

5月30日(日) カルタ大会(石川啄木、県名カルタ他)！

つとがわ 編集後記

幼稚園の畑のイチゴが、はじめてカラスに食い荒らされることになりました。今までも、ヒヨドリに食べられたり、ナメクジに食べられたりしましたが、“食べられる”という程度でした。カラスは、赤いのはことごとくたいらげ、青いイチゴは食いちぎって畝の間に散らかすのですから、まさしく“食い荒らす”なのです。で、幼稚園の畑のイチゴには、初めて“防鳥ネット”が張られることになりました。

このあたりで、カラスが現れて元気に鳴いているのは、ゴミの日です。ちょっと油断すると、ネットのすき間からゴミを引っ張り出して散らかします。で、街はゴミネットに本気になっているのですが、ちょっと違うかなと思っています。大量にゴミを出すことに平気な街は、カラスにとって隙だらけに見えるに違いありません。

幼稚園の畑には、防鳥ネットと並んで売られていた、空気を入れるとふくらむビニール製のカラスが二羽ぶら下がっています。で、防鳥ネットはともかく、粗雑でちょっと間の抜けたこのカラスは、ちゃんと仕事をしているのだろうか。

(K)

幼稚園にいるメダカ、暖かくなってきて最近卵を産みはじめました。毎日のようにお腹にいくつかの卵をくっつけて泳いでいます。水草に生み付けてはまた新たな卵を〜。卵を食べてしまわないように別の容器に入れるのが日課になっています。子どもたちと顔をくっつけるようにして水槽を覗き込むのもいい時間

卵から小さな赤ちゃんが出てくる約二週間後のその日が楽しみで仕方ありません。

(I)

父の誕生日にメガネを買う約束をしてから、なかなか時間が合わず、3ヶ月も過ぎてしまいました。先日、やっと二人でメガネを見に出かけました。父とは仲のいい私ですが、二人でショッピングなんて何年振りかのことです。ワケあって、父と二人で過ごすことの多くなったこの頃。もっといろいろ会話を楽しみたいなぁと思っています。

(Y)

先日、久しぶりに短大の友人と集まりました。それぞれおかずやごはんを持ち寄って芝生でピクニック〜 近況報告など、いろんな話をしたり、

みんなでひなたぼっこをしたり、何気ない時間でしたが、私にとってとても幸せで大切なひと時でした。

近々、幼馴染と会う予定です。普段はなかなか会えないのですが、こんな風にならずにつながりたい、こんなひと時を大切にしていきたいと感じています。

(N)

この欄への反響をいつも楽しませてもらっている。「ここがおかあさんの場所です。好きなようにしてください」、婿殿に言われて「えっわたしの場所って？ここがかい！」と心の中でつぶやいた娘の新居の花壇、本人たちの努力もあり1年を超すとなかなか四季折々彩られています。反対側に植えたたまねぎやいちごもこの5月、初年度の収穫としてはなかなかのもの。いつだったか書いたのでその後のそんな報告などをまず。

次は4月号に寄せていただいた1枚のはがきから〜「ニューギニアをもうひとつ重ねて…」と最後に書いてくださっていたそれには1995年の元旦に90歳で亡くなられたおとうさまの「南方」の話を記してくださっていました。同じ思いで「ゲゲの女房」を見ているとのこと、いつもこの通信を読んで遠く関東から一言二言寄せてくださるTさん、その絵はがきはケーテ・コルビッツの作品。自分の子どもを戦争で亡くした親の悲しみを彫刻と版画などで表現したドイツの人。それにしたためられた文章、Tさんありがとうございました。ベッドの父にこの思いを届けます。

(J)